

# CSRレポート 2011 DATA BOOK

## 住友化学



### CONTENTS

#### レスポンシブル・ケア活動

■ 1 マネジメントシステム	2	■ 6 RC 監査	17
■ 2 労働安全衛生	3	■ 7 グループでの環境保全管理目標の共有化	18
■ 3 環境保全	4	■ 8 省エネ法・地球温暖化対策推進法に基づく グループでのエネルギー消費量および排出量	23
■ 4 物流環境保全	16	■ 9 その他 (トピックス)	23
■ 5 保安防災	17	■ 10 エコ・ファーストの約束	24

住友化学では全工場で「環境・安全レポート」を作成しています。  
詳細につきましては、下記までお問い合わせください。

#### 住友化学 (株) 愛媛工場 総務部

〒792-8521 愛媛県新居浜市惣開町5-1 ■TEL.0897-37-1711 ■FAX 0897-37-4161

#### 住友化学 (株) 千葉工場 総務部

〒299-0195 千葉県市原市姉崎海岸5-1 ■TEL.0436-61-1313 ■FAX 0436-61-2229

#### 住友化学 (株) 大阪工場 (春日出) 総務部

〒554-8558 大阪市此花区春日出中3-1-98 ■TEL.06-6466-5022 ■FAX 06-6466-5460

#### 住友化学 (株) 大江工場 総務部

〒792-0015 愛媛県新居浜市大江町1-1 ■TEL.0897-37-1800 ■FAX 0897-37-1158

#### 住友化学 (株) 大分工場 総務部

〒870-0106 大分県大分市大字鶴崎2200 ■TEL.097-523-1111 ■FAX 097-523-1121

#### 住友化学 (株) 三沢工場 総務部

〒033-0022 青森県三沢市大字三沢字淋代平 ■TEL.0176-54-2111 ■FAX 0176-54-2163

※大阪工場 (歌島)、大阪工場 (岐阜プラント)、大阪工場 (岡山プラント) 分については、  
大阪工場 (春日出) にお問い合わせください。

## 1 | マネジメントシステム ~国際基準によるマネジメントシステムの導入状況~

### ①環境マネジメントシステム (ISO14001)

1997～99年にかけて、全工場でISO14001 (1996年版) の認証取得を完了しました。その後、2005～06年にかけて、ISO14001 (1996年版) の改訂版であるISO14001 (2004年版) の移行審査を受審し、新規格での認証登録を行いました。2010年7月現在、住友化学グループ会社では国内19社、海外11社がISO14001 (2004年版) を認証取得しています。

#### ●住友化学工場の ISO14001 認証取得状況

工場名 [登録番号]	ISO14001 (1996年版) 取得年月	ISO14001 (2004年版) 取得年月
愛媛工場 (大江工場を含む) [JCQA-E-018]	1998年 4月	2006年 4月
千葉工場 [KHK-97ER-04]	1997年 6月	2006年 3月
大阪工場 (春日出) [JQA-E-90072]	1997年11月	2006年 1月
大阪工場 (岐阜プラント) [JCQA-E-0206]	2000年12月	2005年12月
大阪工場 (岡山プラント) [JCQA-E-0218]	2001年 1月	2006年 2月
大分工場 [JQA-E-90152]	1998年 3月	2006年 4月
三沢工場 [JQA-EM0355]	1999年 3月	2006年 2月

### ②品質マネジメントシステム (ISO9001)

1994～98年にかけて、大阪工場 (岐阜プラント) ※を除く全工場でISO9002 (1994年版) の認証取得を完了しました。その後、2009～2010年にかけてISO9000シリーズの2008年版への切り替えを行うとともに、大江工場でも2010年にISO9000シリーズの2008年版の認証登録 (ISO9001) を行いました。

#### ●住友化学工場の ISO9000 シリーズ認証取得状況

工場名 [登録番号]	ISO9002 (1994年版) 取得年月	ISO9001 (2008年版) 取得年月
愛媛工場 [JCQA-0019] [YKA-4004422/J]	1994年10月 —	2009年10月 2009年 8月
千葉工場 [JQA-0829]	1995年 3月	2010年 4月
大阪工場 (春日出) [JQA-0721]	1994年12月	2009年12月
大阪工場 (岡山プラント) [JQA-1650]	1997年 3月	2010年 4月
大分工場 [JQA-1069]	1995年12月	2010年 1月
三沢工場 [JQA-0752]	1994年12月	2009年12月
大江工場 [JCQA-0320] [JCQA-1720]	1998年 4月 —	2010年 4月 2010年 1月

※大阪工場 (岐阜プラント) は、他工場 (大阪工場 (春日出)、大阪工場 (岡山プラント)、大分工場、三沢工場) と同様に、GMP (医薬品等の製造管理および品質管理の基準) の管理を行っています。

### ③労働安全衛生マネジメントシステム (OSHMS)

2009年度までに当社5工場、2研究所においてJISHA (中央労働災害防止協会) よりOSHMSの認証を取得して運用を行っています。

#### ●住友化学工場、研究所における認証取得状況

事業所名	登録番号	取得年月
愛媛工場	04-38-1	2004年 9月
千葉工場	03-12-1	2003年 5月
大阪工場 (春日出)	05-27-3	2005年 2月
大阪工場 (歌島地区)	09-27-14	2009年 1月
大阪工場 (岐阜プラント)	09-21-6	2009年 2月
大阪工場 (岡山プラント)	09-33-7	2009年 2月
大分工場	06-44-1	2006年 7月
大江工場	10-38-4	2010年 3月
農業化学品研究所	07-28-9	2007年 1月
筑波研究所	05-8-3	2005年12月

#### ④大臣認定に基づく高圧ガス自主保安管理

住友化学は、47の施設について、「高圧ガス保安法」に基づく「認定（完成・保安）検査実施者」を取得し、安全操業を行っています。

千葉工場では1987年より認定を継続しており、2009年5月に認定を更新しました。愛媛工場も2002年より認定を継続しており、2008年3月に更新しました。両工場とも、各プラントは安定した連続運転を実施しています。

保安技術・管理レベルが優れ、法が規定する要件を満たす事業所として大臣認定を取得すると、法に基づく検査項目に加え、自主的な保安検査を行うことが可能となります。

大臣認定にあたっては、日常の保安検査データの正確性のほか、保安管理体制等について、学識経験者を含む審査チームによる事前審査が行われ、住友化学は認定の更新時審査において毎回、高い評価を得ています。

#### ●「認定（完成・保安）検査実施者」取得状況

工場	地区	認定更新年月	認定施設数
愛媛工場	新居浜 菊本	2008年 3 月	13
		2008年 3 月	6
千葉工場	姉崎 袖ヶ浦	2009年 5 月	11
		2009年 5 月	17

## 2 | 労働安全衛生

### (1) 休業無災害表彰基準と実績

住友化学社員および協力会社社員に対して、事業所ごとに無災害継続時間の基準を設定し、各基準を達成することにより「社長安全表彰」を行っています。

#### ①住友化学社員

事業所名	社長安全表彰基準 (休業無災害継続時間)	基準達成状況
愛媛工場	300万時間	(2011年12月に300万時間の目標達成予定)
千葉工場	300万時間	2010年8月に300万時間の目標達成
大阪工場	300万時間	(2011年9月に300万時間の目標達成予定)
大分工場	100万時間	2010年4月に500万時間の目標達成
三沢工場	30カ月	休業無災害目標30ヶ月に向けて活動中
健・農研	30カ月	2011年6月に300ヶ月の目標達成
筑波研	30カ月	(2011年9月に270ヶ月の目標達成予定)

#### ②協力会社社員

事業所名	社長安全表彰基準 (休業無災害継続時間)	基準達成状況
愛媛協力会 (保安)	24カ月	(2012年8月に24ヶ月の目標達成予定)
愛媛協力会 (物流)	24カ月	(2012年6月に24ヶ月の目標達成予定)
大江協力会 (保安)	24カ月	(2013年3月に48ヶ月の目標達成予定)
大江協力会 (物流)	24カ月	(2013年3月に48ヶ月の目標達成予定)
千葉協力会 (保安)	24カ月	(2012年1月に48ヶ月の目標達成予定)
千葉協力会 (物流)	24カ月	(2012年8月に24ヶ月の目標達成予定)
大阪協力会	24カ月	(2012年12月に24ヶ月の目標達成予定)
岡山協力会	48カ月	(2012年10月に24ヶ月の目標達成予定)
大分協力会	24カ月	(2013年4月に24ヶ月の目標達成予定)
三沢協力会	48カ月	2011年3月に144ヶ月の目標達成
健・農研 協力会	48カ月	2011年3月に144ヶ月の目標達成
筑波協力会	48カ月	(2011年9月に144ヶ月の目標達成予定)

### (2) グループ会社の安全成績

住友化学を除く住友化学グループ会社の休業災害件数および休業災害度数率は、2010年度は、前年度に比較して改善されました。引き続き、発生した災害の詳細についてグループ全体で情報の共有化を図り、グループ一体となった安全成績の一層の改善を目指します。

	休業災害件数	休業災害度数率
2009年度	15件	0.45
2010年度	10件	0.30

# 3 | 環境保全

## 【公害防止】

### ①SOx、NOx、ばいじんの 大気排出量

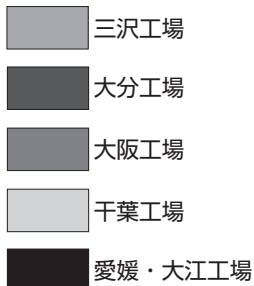
SOx、NOx、ばいじんの大気排出は、1970年以降大幅な削減を達成し、80年以降、現在まで低水準の排出量を維持しています。また、各工場では、法による規制よりも厳しい協定値を自治体と締結し、この値を自主管理基準値としています。目標として、この自主管理基準値以下の維持・継続に努めています。

レスポンスシブル・ケア活動

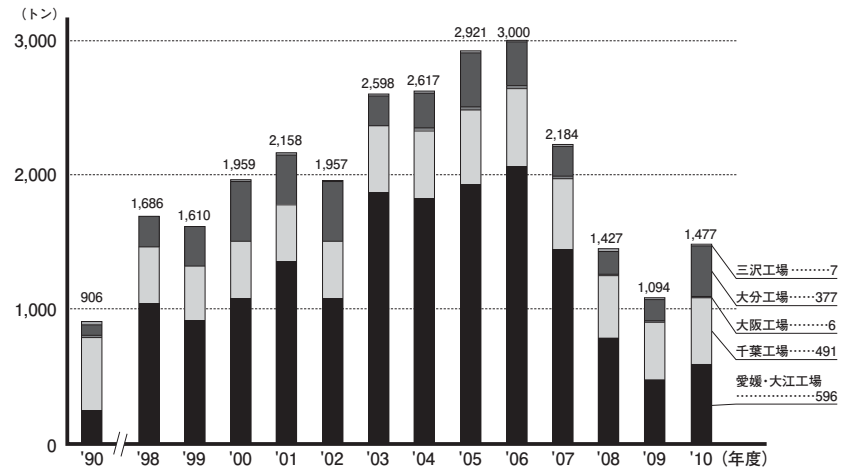
環境保全

#### ◇目標◇

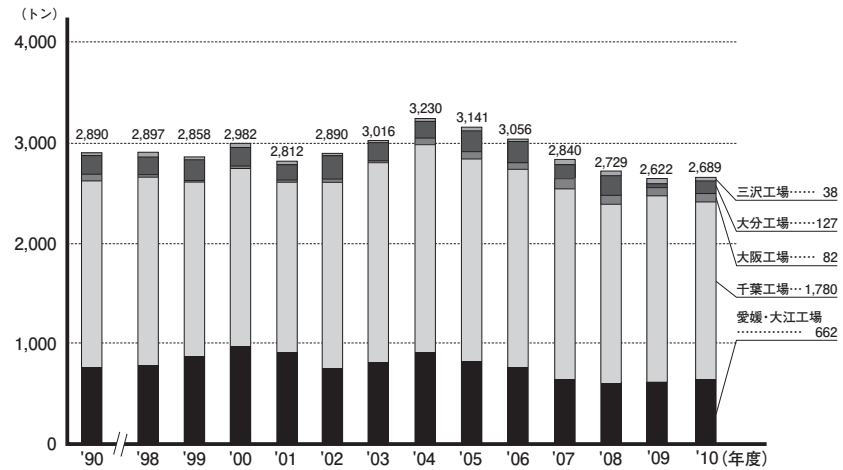
自主管理基準値以下の維持・継続に努める。



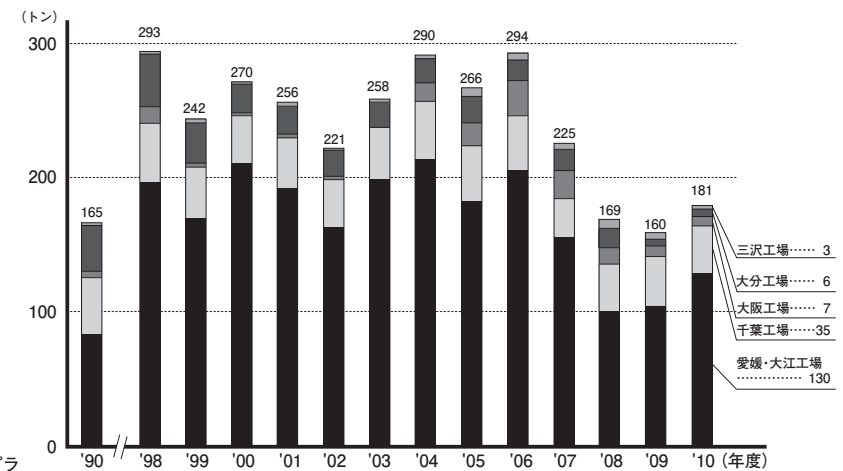
### SOx排出量



### NOx排出量



### ばいじん排出量



※2004年度以降の大阪工場には、大阪工場（岐阜プラント）・大阪工場（岡山プラント）のデータを含む。

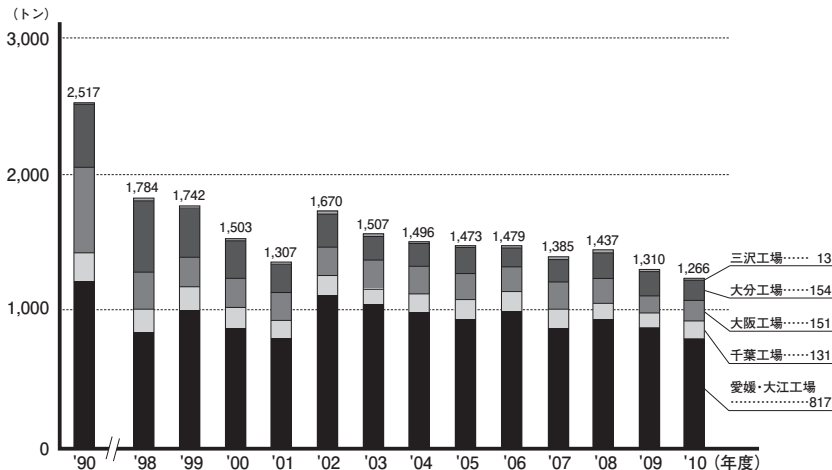
## ②COD、窒素、リンの 水域排出量

住友化学では、COD、窒素、リンについても、法による規制よりも厳しい協定値を自治体と締結し、この値を自主管理基準値としています。第5次水質総量規制を踏まえた排出削減諸施策の実施により、2004年度以降、とりわけ窒素およびリンの排出量を大きく削減しています。

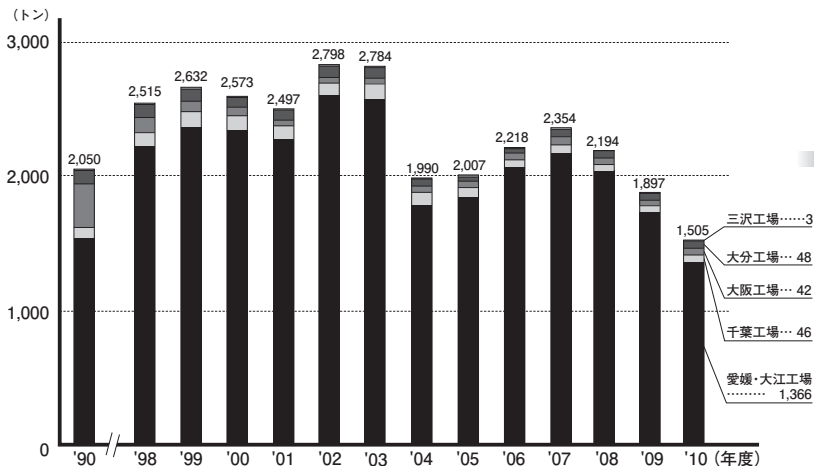
### ◇目標◇

自主管理基準値以下の維持・継続に努める。

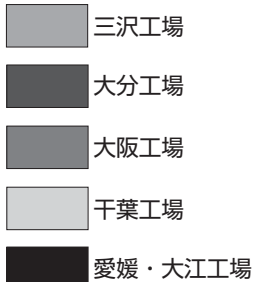
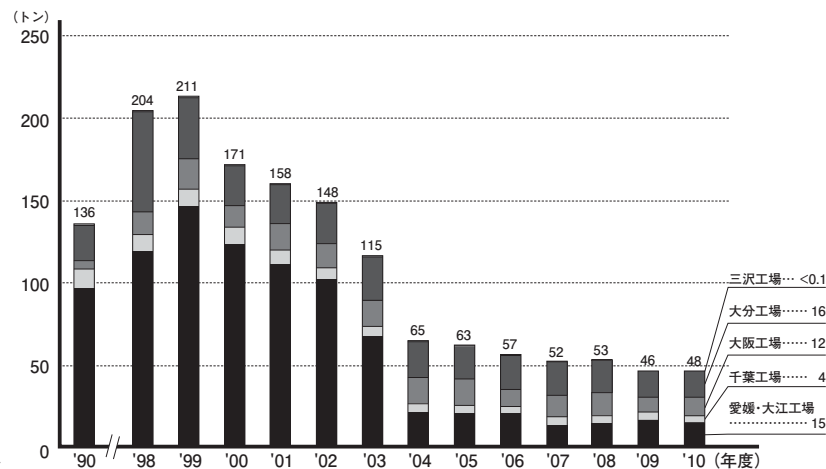
### COD排出量



### 全窒素排出量



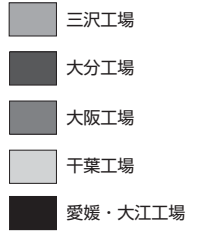
### 全リン排出量



※2004年度以降の大阪工場には、大阪工場（岐阜プラント）・大阪工場（岡山プラント）のデータを含む。

## 【効果的な水利用の推進】

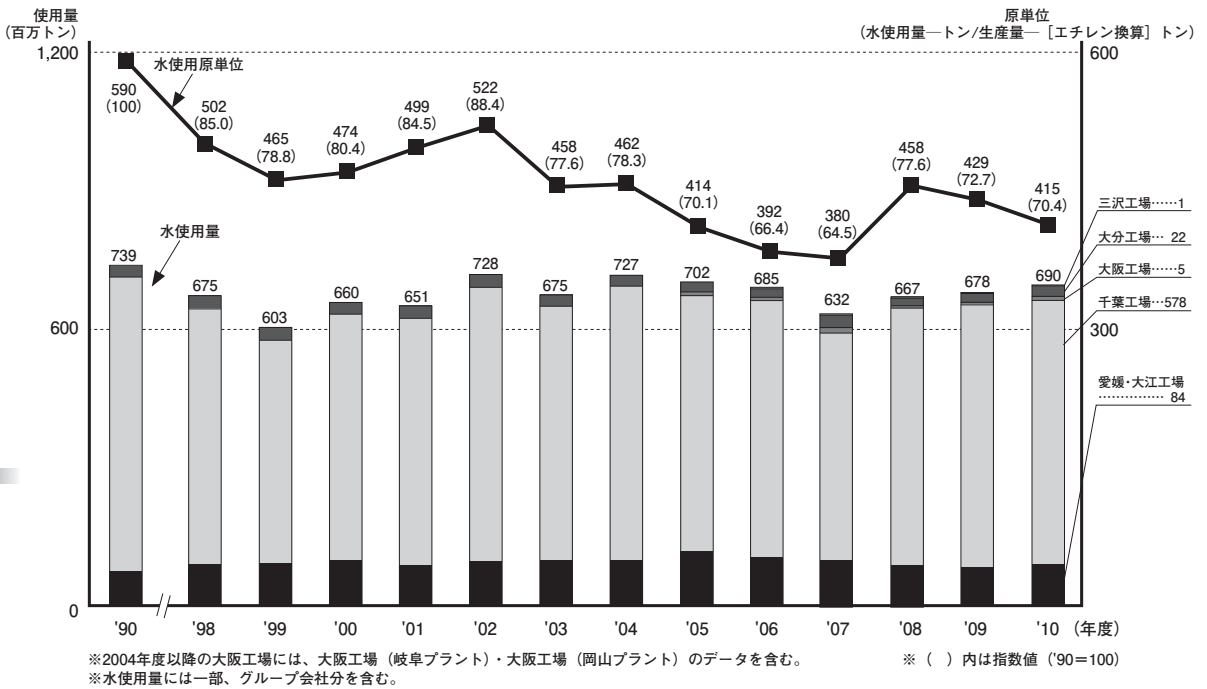
住友化学は、水を貴重かつ重要な資源として位置付け、その効率的な利用の促進に努めています。2010年度の水使用原単位は、1990年度比29.7%の改善（前年度比3.3%の改善）となり、当初の目標（25%改善）を達成しました。現在2015年度を目標年度とする新たな新目標の策定を検討中であり、2011年下期以降の取り組み開始を計画しています。



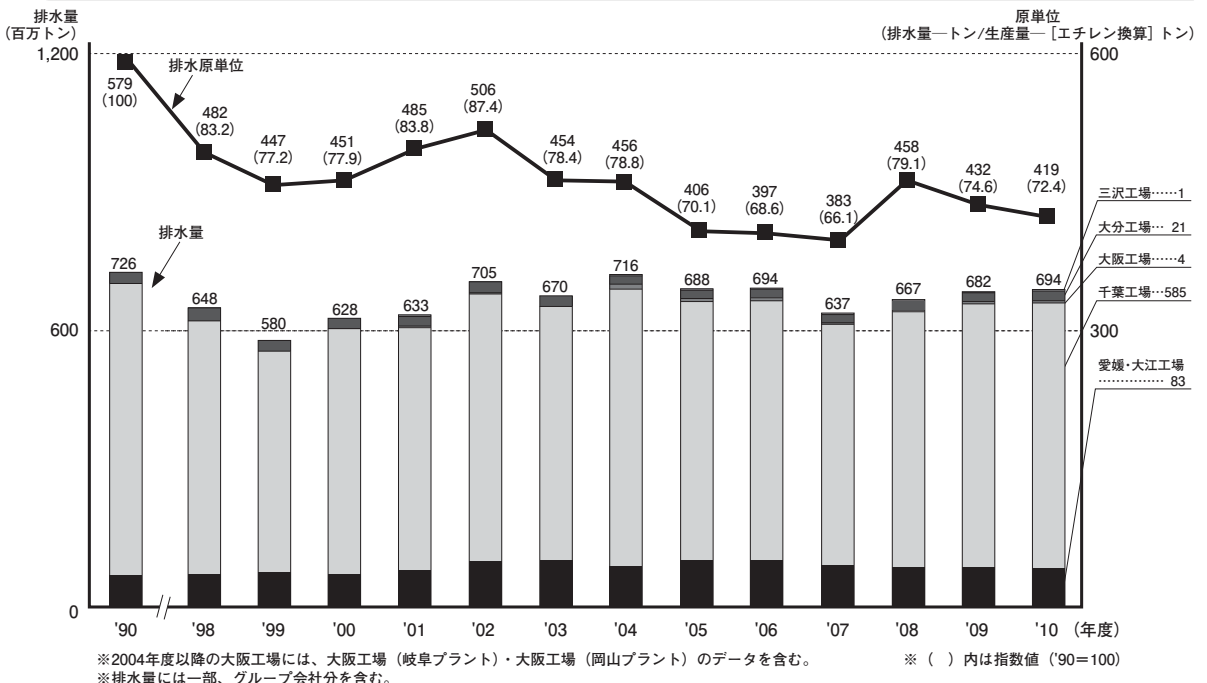
### ◇目標◇

### 水資源の効率的な利用

水使用量と水使用原単位



排水量と排水原単位



# 【温室効果ガス排出削減】

## ①CO<sub>2</sub>

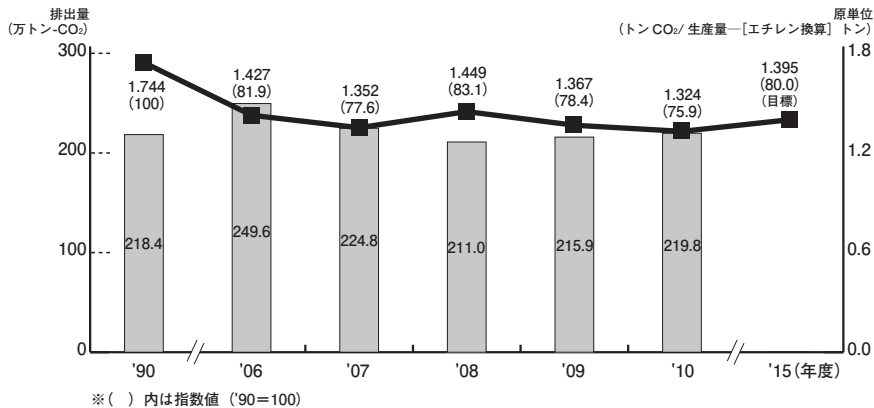
2010年度の全CO<sub>2</sub>排出量は、5%強の生産増にもかかわらず省エネ努力や購入電力のCO<sub>2</sub>排出原単位の改善等により、前年度比0.2%減の435.4万トンでした。1990年度比では18.1%の増加となりました。

一方、2010年度の自家消費する化石燃料由来のCO<sub>2</sub>排出原単位は、前年度比3.2%の改善となり、1990年度比では24.1%の改善となりました。

### ◇目標◇

自家消費する化石燃料由来のCO<sub>2</sub>排出原単位を2015年度までに1990年度比20%改善する。

#### 自家消費する化石燃料由来のCO<sub>2</sub>排出量と同原単位



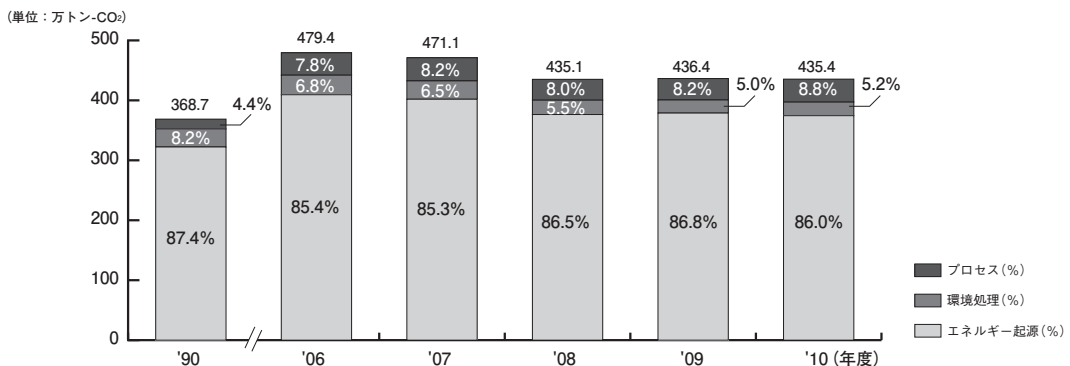
## ②温室効果ガス (全6ガス)

### 温室効果ガス (全6ガス) の排出量

(単位：万トン-CO<sub>2</sub>換算)

	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度
CO <sub>2</sub>	479.4	471.1	435.1	436.4	435.4
メタン	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01
亜酸化窒素 (N <sub>2</sub> O)	6.4	5.8	5.3	4.6	5.2
HFC (ハイドロフルオロカーボン)	<0.01	0.02	0.02	0.04	0.05
PFC (パーフルオロカーボン)	0	0	0	0	0
六フッ化硫黄	0	0	0	0	0
合計	485.8	476.9	440.4	441.1	440.7

### 発生源別のCO<sub>2</sub>排出割合



## 【省エネルギー】

2010年度のエネルギー消費量は生産増により前年度比3.9%増の1,485千kl（原油換算）となりました。一方で製造設備でのエネルギー回収の強化や運転方法の改善等によりエネルギー消費原単位は前年度比1.0%の改善となり、1990年度比では18.3%の改善となりました。

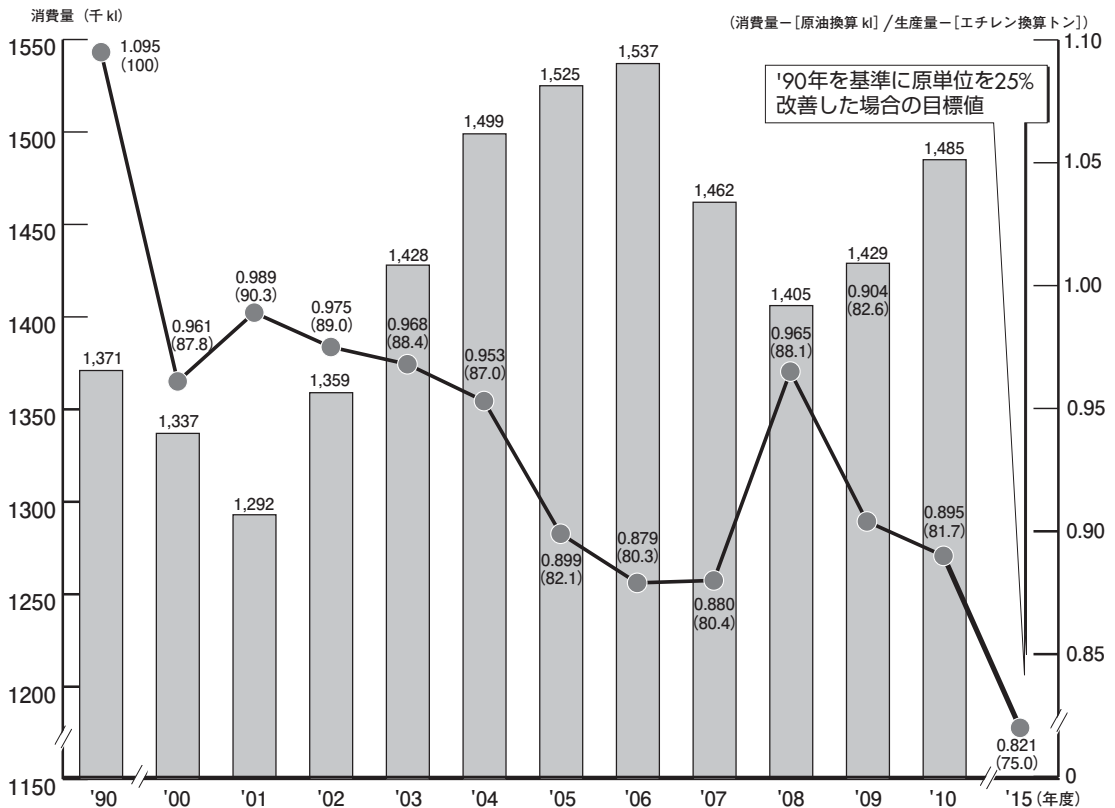
### ◇目標◇

2015年度のエネルギー消費原単位を1990年度比25%改善する。

エネルギー消費原単位の内訳

	a エネルギー消費量 (原油換算千kl)	b 生産量 (エチレン換算千トン)	a/b 原単位
愛媛工場	596	733	0.813
千葉工場	765	820	0.933
大阪工場	33	43	0.767
大分工場	53	36	1.472
三沢工場	11	7	1.571
大江工場	27	21	1.286
計	1,485	1,660	0.895

エネルギー消費量とエネルギー消費原単位



※1990（基準年）および2004年度以降のデータには、大阪工場（岐阜プラント）・大阪工場（岡山プラント）のデータを含む。



# [PRTR 対応]

## 1. 旧PRTR対応 (旧PRTR法施行令 (平成12年3月29日公布) 対応)

住友化学は、「環境リスクに基づくリスク評価」や「排出ランキング評価」等の結果をもとに策定した「PRTR法対象物質の総排出量 (大気・水域) を2010年度までに2002年度比50%削減」の目標達成に向け、各種の削減対策を計画的に推進してきました。目標年度である2010年度のPRTR対象物質の総排出量は、2002年度比63.4%削減 (前年度比4.7%の削減) の424トンとなり、当初の目標を達成しました。

### ●2010年度PRTR調査物質の排出量・移動量一覧表

(単位: トン ただしダイオキシン類のみmg-TEQ)

No.	PRTR対象物質	化学物質名	排出量					移動量			
			大気	水質	土壌	埋立	合計	下水道	廃棄物	合計	
1	○	○	亜鉛の水溶性化合物	0.0	0.7	0.0	0.0	0.7	0.0	104.2	104.2
2	○	○	アクリル酸及びその水溶性塩	<0.1	0.0	0.0	0.0	<0.1	0.0	0.0	0.0
3	○	○	アクリル酸メチル	9.2	0.0	0.0	0.0	9.2	0.0	4.7	4.7
4	○	○	アクリロニトリル	3.7	0.0	0.0	0.0	3.7	0.0	0.0	0.0
5	○	○	アクロレイン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
6	○	○	アジピン酸	0.7	7.6	0.0	0.0	8.3	0.0	0.0	0.0
7	○	○	アセトアルデヒド	0.2	<0.1	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0
8	○	○	アセトニトリル	6.2	0.0	0.0	0.0	6.2	0.0	13.7	13.7
9	○	○	アセトン	62.7	0.7	0.0	0.0	63.4	0.0	104.7	104.7
10	○	○	2,2'-アゾビスイソブチロニトリル	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
11	○	○	オルト-アニシジン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
12	○	○	アニリン	0.8	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	34.4	34.4
13	○	○	2-アミノエタノール	<0.1	0.2	0.0	0.0	0.2	0.0	15.4	15.4
14	○	○	メタ-アミノフェノール	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.1	2.1
15	○	○	アリルアルコール	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	4.3	4.3
16	○	○	アルミニウム化合物 (水溶性塩)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
17	○	○	アンチモン及びその化合物	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.1	4.1
18	○	○	アンモニア	3.9	1.0	0.0	0.0	4.9	0.0	<0.1	<0.1
19	○	○	イソブレン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20	○	○	2-エチル-1-ヘキサノール	<0.1	0.0	0.0	0.0	<0.1	0.0	625.7	625.7
21	○	○	エチルベンゼン	11.1	0.1	0.0	0.0	11.2	0.0	21.5	21.5
22	○	○	エチレンオキシド	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
23	○	○	エチレングリコール	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
24	○	○	エチレンジアミン四酢酸	0.0	<0.1	0.0	0.0	<0.1	0.0	0.0	0.0
25	○	○	エピクロロヒドリン	4.8	3.2	0.0	0.0	8.0	0.0	0.0	0.0
26	○	○	1,2-エポキシプロパン (酸化プロピレン)	0.0	<0.1	0.0	0.0	<0.1	0.0	0.0	0.0
27	○	○	塩化アンモニウム	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
28	○	○	塩化水素 (塩酸を除く)	0.5	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0
29	○	○	塩素	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
30	○	○	イブシロン-カプロラクタム	0.5	21.6	0.0	0.0	22.1	0.0	2.4	2.4
31	○	○	ギ酸	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
32	○	○	2,6-キシレノール	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.1	2.1
33	○	○	キシレン	8.0	0.1	0.0	0.0	8.1	<0.1	20.6	20.6
34	○	○	クレゾール	0.2	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0
35	○	○	クロルスルホン酸	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
36	○	○	クロロアニリン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
37	○	○	クロロエタン	8.8	0.0	0.0	0.0	8.8	0.0	0.0	0.0
38	○	○	3-クロロプロペン (別名: 塩化アリル)	6.2	0.0	0.0	0.0	6.2	0.0	0.0	0.0
39	○	○	クロロベンゼン	7.8	0.0	0.0	0.0	7.8	0.0	95.4	95.4
40	○	○	クロホルム	<0.1	0.0	0.0	0.0	<0.1	0.0	2.1	2.1
41	○	○	コバルト及びその化合物	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
42	○	○	酢酸エチル	8.9	0.1	0.0	0.0	9.0	0.0	131.3	131.3
43	○	○	酢酸ビニル	69.4	<0.1	0.0	0.0	69.4	0.0	279.4	279.4
44	○	○	サリチルアルデヒド	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
45	○	○	無機シアン化合物 (錯塩及びシアン酸塩を除く。)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
46	○	○	ジエタノールアミン	0.0	0.2	0.0	0.0	0.2	0.0	0.9	0.9
47	○	○	1,4-ジオキサソ	<0.1	0.0	0.0	0.0	<0.1	0.8	116.1	116.9
48	○	○	シクロヘキサノール	11.1	<0.1	0.0	0.0	11.1	0.0	28.9	28.9
49	○	○	シクロヘキサソ	97.5	0.0	0.0	0.0	97.5	0.0	0.0	0.0
50	○	○	シクロヘキサ-1-エン-1,2-ジカルボキシイミドメチル (=1RS)-シス-トランス-2,2-ジメチル-3-(2-メチルプロパ-1-エニル)シクロプロパンカルボキシラート (別名: テトラメトリン)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
51	○	○	シクロヘキシルアミン	0.0	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0	3.8	3.8
52	○	○	1,2-ジクロロエタン	6.2	0.0	0.0	0.0	6.2	0.0	74.2	74.2
53	○	○	1,2-ジクロロプロパン	0.2	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	684.8	684.8
54	○	○	1,3-ジクロロプロペン (別名: D-D)	0.4	0.2	0.0	0.0	0.6	0.0	445.2	445.2
55	○	○	ジクロロベンゼン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	138.9	138.9
56	○	○	ジクロロペンタフルオロプロパン (別名: HCFC-225)	25.2	0.0	0.0	0.0	25.2	0.0	0.0	0.0
57	○	○	ジクロロメタン (別名: 塩化メチレン)	9.5	0.0	0.0	0.0	9.5	0.0	129.9	129.9
58	○	○	2,4-ジニトロフェノール	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	38.9	38.9
59	○	○	ジフェニルアミン	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	7.2	7.2
60	○	○	N,N-ジメチルホルムアミド	0.4	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	151.5	151.5

●2010年度PRTR調査物質の排出量・移動量一覧表

No.	PRTR法 対象 物質	日化指 対象 物質	化学物質名	排 出 量					移 動 量		
				大気	水 質	土 壌	埋 立	合 計	下水道	廃棄物	合 計
61	○	○	臭化水素	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
62		○	しゅう酸	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5	1.5
63		○	硝酸	0.0	<0.1	0.0	0.0	<0.1	0.0	0.0	0.0
64	○	○	スチレン	2.4	<0.1	0.0	0.0	2.4	0.0	0.2	0.2
65	○	○	ダイオキシン類	13.2	18.5	0.0	0.0	31.7	<0.1	18.2	18.2
66	○	○	チオ尿素	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
67	○	○	1,3,5,7-テトラアザトリシロ [3.3.1.1 (3,7)] デカン (別名:ヘキメチレンテトラミン)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
68		○	テトラヒドロフラン	4.3	<0.1	0.0	0.0	4.3	0.0	399.6	399.6
69	○	○	テレフタル酸	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	340.8	340.8
70	○	○	ドデシル硫酸ナトリウム	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
71		○	トリエタノールアミン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
72	○	○	2,4,6-トリクロロ-1,3,5-トリアジン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
73	○	○	トリクロロフルオロメタン (別名: CFC-11)	1.5	0.0	0.0	0.0	1.5	0.0	0.0	0.0
74		○	トリメチルアミン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
75	○	○	トルイジン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.1	6.1
76	○	○	トルエン	147.9	0.2	0.0	0.0	148.1	<0.1	2355.8	2355.8
77	○	○	鉛化合物	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
78	○	○	ニッケル化合物	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	1.1
79	○	○	ニトロベンゼン	0.6	0.6	0.0	0.0	1.2	0.0	45.5	45.5
80	○	○	砒素及びその無機化合物	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
81	○	○	ヒドラジン	<0.1	0.2	0.0	0.0	0.2	0.0	7.3	7.3
82	○	○	ヒドロキノン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	<0.1	<0.1
83	○	○	ピリジン	2.9	1.2	0.0	0.0	4.1	0.0	7.7	7.7
84	○	○	ピロカテコール (別名カテコール)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
85	○	○	フェニレンジアミン	0.0	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0	0.2	0.2
86	○	○	1,3-ブタジエン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
87		○	フタル酸ジイソブチル	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
88	○	○	フタル酸ジ-ノルマル-ブチル	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
89	○	○	フタル酸ビス (2-エチルヘキシル)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.4	15.4
90		○	ブチルアルコール	1.3	0.0	0.0	0.0	1.3	0.0	3.7	3.7
91		○	ノルマルブチルアルデヒド	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0
92	○	○	ターシャリ-ブチル=ヒドロペルオキシド	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
93	○	○	4-ターシャリ-ブチルフェノール	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
94	○	○	2-ターシャリ-ブチル-5-メチルフェノール	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0
95		○	プロピルアルコール	2.9	<0.1	0.0	0.0	2.9	<0.1	185.1	185.1
96	○	○	2-プロモプロパン	<0.1	0.0	0.0	0.0	<0.1	0.0	0.0	0.0
97	○	○	ベンジル=クロリド (別名: 塩化ベンジル)	<0.1	0.0	0.0	0.0	<0.1	0.0	0.0	0.0
98	○	○	ベンズアルデヒド	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
99	○	○	ベンゼン	11.9	1.0	0.0	0.0	12.9	0.0	0.0	0.0
100		○	ペンタエリスリトール	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
101	○	○	ほう素化合物	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	4.0
102	○	○	ポリ (オキシエチレン) =アルキルエーテル (アルキル基の炭素数が12から15までのもの及びその混合物に限る。)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
103	○	○	ホルムアルデヒド	0.1	0.1	0.0	0.0	0.2	2.4	0.0	2.4
104	○	○	無水フタル酸	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
105	○	○	無水マレイン酸	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
106	○	○	メタクリル酸	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	19.5	19.5
107	○	○	メタクリル酸2-エチルヘキシル	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0	5.0
108	○	○	メタクリル酸2,3-エポキシプロピル	10.4	0.0	0.0	0.0	10.4	0.0	8.5	8.5
109	○	○	メタクリル酸メチル	36.8	0.0	0.0	0.0	36.8	0.0	86.3	86.3
110		○	メタンチオール	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
111		○	メチルアルコール	387.1	0.5	0.0	0.0	387.6	0.0	796.2	796.2
112		○	メチルエチルケトン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.2	2.2
113	○	○	3-メチルチオプロパナール	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
114		○	N-メチルピロリドン	<0.1	0.0	0.0	0.0	<0.1	0.0	<0.1	<0.1
115		○	メチルブチルケトン	85.0	2.6	0.0	0.0	87.6	0.0	2695.7	2695.7
116	○	○	モリブデン及びその化合物	0.0	0.7	0.0	0.0	0.7	0.0	0.8	0.8
117		○	硫酸	2.2	0.0	0.0	0.0	2.2	0.0	57.9	57.9
118		○	硫酸ジエチル	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
119		○	りん及びその化合物	0.2	23.9	0.0	0.0	24.1	0.0	0.0	0.0
			住友化学全119物質集計 (2010年度)	1062.0	66.7	0.0	0.0	1128.7	3.1	10334.3	10337.4

※PRTR法ではkg・有効数字2桁だが、報告書の数値はトン単位 (ダイオキシンはmg-TEQ)で小数点以下第1位まで表記した (小数点第2位で四捨五入)。

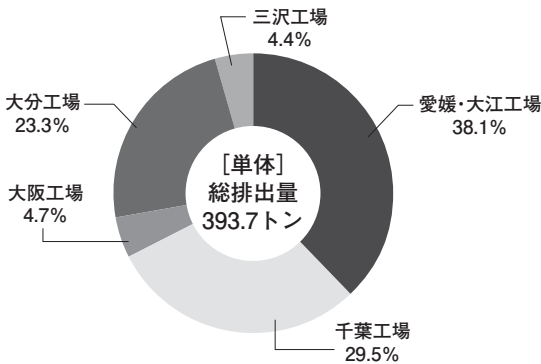
●2010年度PRTR調査物質の排出・移動量の内訳

		排出量			移動量		
		大気	水域	小計	下水道	廃棄	小計
PRTR法対象物質	単体 (84物質)	393.7	30.0	423.7	3.1	5301.0	5304.1
	グループ	629.5	56.5	686.0	6.5	8987.2	8993.7
日化協PRTR対象物質	単体 (119物質)	1062.0	66.7	1128.7	3.2	10334.3	10337.5

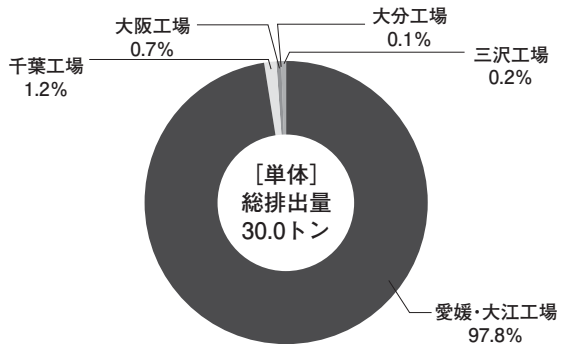
※グループの2010年度PRTR法対象物質の排出・移動量の内訳は、住友化学と国内グループ会社（16社）の集計値。

排出量の工場別内訳

●大気排出量（PRTR法対象物質）



●水域排出量（PRTR法対象物質）



2. 新PRTR対応（新PRTR法施行令（平成20年11月21日公布）対応）

2011年4月からは、「2015年度までに総排出量を2008年度比60%削減」の新目標の取り組みをスタートさせました。これまでと同様にリスク管理の実践による環境負荷の低減に努めていきます。

●2010年度PRTR調査物質の排出量・移動量一覧表

No.	PRTR法対象物質	日化協対象物質	化学物質名	排出量					移動量		
				大気	水質	土壌	埋立	合計	下水道	廃棄物	合計
1	○	○	亜鉛の水溶性化合物	0.0	0.7	0.0	0.0	0.7	0.0	104.2	104.2
2	○	○	アクリル酸及びその水溶性塩	<0.1	0.0	0.0	0.0	<0.1	0.0	0.0	0.0
3	○	○	アクリル酸メチル	9.2	0.0	0.0	0.0	9.2	0.0	4.7	4.7
4	○	○	アクリロニトリル	3.7	0.0	0.0	0.0	3.7	0.0	0.0	0.0
5	○	○	アクロレイン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
6	○	○	アジピン酸	0.7	7.6	0.0	0.0	8.3	0.0	0.0	0.0
7	○	○	アセトアルデヒド	0.2	<0.1	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0
8	○	○	アセトニトリル	6.2	0.0	0.0	0.0	6.2	0.0	13.7	13.7
9	○	○	アセトン	62.7	0.7	0.0	0.0	63.4	0.0	104.7	104.7
10	○	○	2,2'-アゾビスイソブチロニトリル	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
11	○	○	オルト-アニジジン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
12	○	○	アニリン	0.8	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	34.4	34.4
13	○	○	2-アミノエタノール	<0.1	0.2	0.0	0.0	0.2	0.0	15.4	15.4
14	○	○	メタ-アミノフェノール	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.1	2.1
15	○	○	アリルアルコール	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	4.3	4.3
16	○	○	アルミニウム化合物（水溶性塩）	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
17	○	○	アンチモン及びその化合物	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.1	4.1
18	○	○	アンモニア	3.9	1.0	0.0	0.0	4.9	0.0	<0.1	<0.1
19	○	○	イソブチルアルデヒド	0.2	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0
20	○	○	イソブレン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
21	○	○	2-エチル-1-ヘキサノール	<0.1	0.0	0.0	0.0	<0.1	0.0	625.7	625.7
22	○	○	エチルベンゼン	11.1	0.1	0.0	0.0	11.2	0.0	21.5	21.5
23	○	○	エチレンオキシド	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
24	○	○	エチレングリコール	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

●2010年度PRTR調査物質の排出量・移動量一覧表

No.	PRTR法 対象 物質	日化協 対象 物質	化学物質名	排 出 量					移 動 量		
				大気	水 質	土 壌	埋 立	合 計	下水道	廃棄物	合 計
25	○	○	エチレンジアミン四酢酸	0.0	<0.1	0.0	0.0	<0.1	0.0	0.0	0.0
26	○	○	エピクロヒドリン	4.8	3.2	0.0	0.0	8.0	0.0	0.0	0.0
27	○	○	1,2-エポキシプロパン (酸化プロピレン)	0.0	<0.1	0.0	0.0	<0.1	0.0	0.0	0.0
28	○	○	塩化アンモニウム	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
29	○	○	塩化水素 (塩酸を除く)	0.5	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0
30	○	○	塩素	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
31	○	○	イブシロン-カプロラクタム	0.5	21.6	0.0	0.0	22.1	0.0	2.4	2.4
32	○	○	ギ酸	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
33	○	○	2,6-キシレノール	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.1	2.1
34	○	○	キシレン	8.0	0.1	0.0	0.0	8.1	<0.1	20.6	20.6
35	○	○	クメン	50.2	<0.1	0.0	0.0	50.2	0.0	0.0	0.0
36	○	○	クレゾール	0.2	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0
37	○	○	クロルスルホン酸	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
38	○	○	クロロアニリン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
39	○	○	クロロエタン	8.8	0.0	0.0	0.0	8.8	0.0	0.0	0.0
40	○	○	パラ-クロロトルエン	<0.1	<0.1	0.0	0.0	<0.1	0.0	0.0	0.0
41	○	○	3-クロロプロパン (別名:塩化アリル)	6.2	0.0	0.0	0.0	6.2	0.0	0.0	0.0
42	○	○	クロロベンゼン	7.8	0.0	0.0	0.0	7.8	0.0	95.4	95.4
43	○	○	クロロホルム	<0.1	0.0	0.0	0.0	<0.1	0.0	2.1	2.1
44	○	○	コバルト及びその化合物	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
45	○	○	酢酸エチル	8.9	0.1	0.0	0.0	9.0	0.0	131.3	131.3
46	○	○	酢酸ビニル	69.4	<0.1	0.0	0.0	69.4	0.0	279.4	279.4
47	○	○	サリチルアルデヒド	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
48	○	○	無機シアン化合物 (錯塩及びシアン酸塩を除く。)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
49	○	○	ジエタノールアミン	0.0	0.2	0.0	0.0	0.2	0.0	0.9	0.9
50	○	○	1,4-ジオキサン	<0.1	0.0	0.0	0.0	<0.1	0.8	116.1	116.9
51	○	○	シクロヘキサノール	11.1	<0.1	0.0	0.0	11.1	0.0	28.9	28.9
52	○	○	シクロヘキサン	97.5	0.0	0.0	0.0	97.5	0.0	0.0	0.0
53	○	○	シクロヘキサ-1-エン-1,2-ジカルボキシイミドメチル= (1RS) -シストランス-2,2-ジメチル-3-(2-メチルプロパ-1-エニル)シクロプロパンカルボキシラート (別名:テトラメトリン)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
54	○	○	シクロヘキシルアミン	0.0	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0	3.8	3.8
55	○	○	1,2-ジクロロエタン	6.2	0.0	0.0	0.0	6.2	0.0	74.2	74.2
56	○	○	1,2-ジクロロプロパン	0.2	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	684.8	684.8
57	○	○	1,3-ジクロロプロパン (別名: D-D)	0.4	0.2	0.0	0.0	0.6	0.0	445.2	445.2
58	○	○	ジクロロベンゼン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	138.9	138.9
59	○	○	ジクロロペンタフルオロプロパン (別名: HCFC-225)	25.2	0.0	0.0	0.0	25.2	0.0	0.0	0.0
60	○	○	ジクロロメタン (別名:塩化メチレン)	9.5	0.0	0.0	0.0	9.5	0.0	129.9	129.9
61	○	○	ジシクロペンタジエン	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	8.9	8.9
62	○	○	2,4-ジニトロフェノール	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	38.9	38.9
63	○	○	ジフェニルアミン	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	7.2	7.2
64	○	○	1,3-ジフェニルguanidinum	0.0	1.0	0.0	0.0	1.0	0.0	17.3	17.3
65	○	○	2,6-ジターシャリ-ブチル-4-クレゾール	0.0	<0.1	0.0	0.0	<0.1	0.0	0.0	0.0
66	○	○	N,N-ジメチルアセトアミド	<0.1	0.0	0.0	0.0	<0.1	0.0	1.4	1.4
67	○	○	ジメチルアミン	0.0	27.1	0.0	0.0	27.1	0.0	0.0	0.0
68	○	○	ジメチルジスルフィド	0.0	<0.1	0.0	0.0	<0.1	0.0	0.0	0.0
69	○	○	N,N-ジメチルホルムアミド	0.4	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	151.5	151.5
70	○	○	臭化水素	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
71	○	○	しゅう酸	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5	1.5
72	○	○	臭素	<0.1	0.0	0.0	0.0	<0.1	0.0	0.0	0.0
73	○	○	臭素酸の水溶性塩	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
74	○	○	硝酸	0.0	<0.1	0.0	0.0	<0.1	0.0	0.0	0.0
75	○	○	スチレン	2.4	<0.1	0.0	0.0	2.4	0.0	0.2	0.2
76	○	○	ダイオキシン類	13.2	18.5	0.0	0.0	31.7	<0.1	18.2	18.2
77	○	○	チオ尿素	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
78	○	○	1,3,5,7-テトラアザトリシクロ [3.3.1.1 (3,7)] ]デカン (別名:ヘキメチレンテトラミン)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
79	○	○	テトラヒドロフラン	4.3	<0.1	0.0	0.0	4.3	0.0	399.6	399.6
80	○	○	テレフタル酸	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	340.8	340.8
81	○	○	ドデシル硫酸ナトリウム	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
82	○	○	トリエタノールアミン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

## ●2010年度PRTR調査物質の排出量・移動量一覧表

No.	PRTR法 対象 物質	日化指 対象 物質	化学物質名	排 出 量					移 動 量		
				大気	水 質	土 壌	埋 立	合 計	下水道	廃棄物	合 計
83	○	○	トリエチルアミン	3.2	9.7	0.0	0.0	12.9	0.9	39.0	39.9
84	○	○	2,4,6-トリクロロ-1,3,5-トリアジン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
85	○	○	トリクロロフルオロメタン (別名: CFC-11)	1.5	0.0	0.0	0.0	1.5	0.0	0.0	0.0
86	○	○	1,2,3-トリクロロプロパン	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	232.6	232.6
87		○	トリメチルアミン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
88	○	○	トルイジン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.1	6.1
89	○	○	トルエン	147.9	0.2	0.0	0.0	148.1	<0.1	2355.8	2355.8
90	○	○	ナフタレン	0.0	<0.1	0.0	0.0	<0.1	0.0	0.0	0.0
91	○	○	鉛化合物	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
92	○	○	ニッケル化合物	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	1.1
93	○	○	ニトロベンゼン	0.6	0.6	0.0	0.0	1.2	0.0	45.5	45.5
94	○	○	砒素及びその無機化合物	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
95	○	○	ヒドラジン	<0.1	0.2	0.0	0.0	0.2	0.0	7.3	7.3
96	○	○	ヒドロキノン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	<0.1	<0.1
97	○	○	ピリジン	2.9	1.2	0.0	0.0	4.1	0.0	7.7	7.7
98	○	○	ピロカテコール(別名カテコール)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
99	○	○	フェニレンジアミン	0.0	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0	0.2	0.2
100	○	○	1,3-ブタジエン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
101		○	フタル酸ジイソブチル	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
102	○	○	フタル酸ジ-ノルマル-ブチル	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
103	○	○	フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.4	15.4
104		○	ブチルアルコール	1.3	0.0	0.0	0.0	1.3	0.0	3.7	3.7
105		○	ノルマルブチルアルデヒド	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0
106	○	○	ターシャリ-ブチル=ヒドロペルオキシド	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
107	○	○	4-ターシャリ-ブチルフェノール	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
108	○	○	2-ターシャリ-ブチル-5-メチルフェノール	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0
109		○	ブロピルアルコール	2.9	<0.1	0.0	0.0	2.9	<0.1	185.1	185.1
110	○	○	2-ブロモプロパン	<0.1	0.0	0.0	0.0	<0.1	0.0	0.0	0.0
111	○	○	ヘキサデシルトリメチルアンモニウム=クロリド	<0.1	4.2	0.0	0.0	4.2	0.0	0.0	0.0
112	○	○	ノルマル-ヘキサン	67.7	<0.1	0.0	0.0	67.7	0.0	661.1	661.1
113	○	○	ベンジル=クロリド (別名: 塩化ベンジル)	<0.1	0.0	0.0	0.0	<0.1	0.0	0.0	0.0
114	○	○	ベンズアルデヒド	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
115	○	○	ベンゼン	11.9	1.0	0.0	0.0	12.9	0.0	0.0	0.0
116	○	○	ペンタエリスリトール	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
117	○	○	ほう素化合物	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	4.0
118	○	○	ポリ(オキシエチレン)=アルキルエーテル(アルキル基の炭素数が12から15までのもの及びその混合物に限る。)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
119	○	○	ホルムアルデヒド	0.1	0.1	0.0	0.0	0.2	2.4	0.0	2.4
120	○	○	無水フタル酸	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
121	○	○	無水マレイン酸	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
122	○	○	メタクリル酸	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	19.5	19.5
123	○	○	メタクリル酸2-エチルヘキシル	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0	5.0
124	○	○	メタクリル酸2,3-エポキシプロピル	10.4	0.0	0.0	0.0	10.4	0.0	8.5	8.5
125	○	○	メタクリル酸メチル	36.8	0.0	0.0	0.0	36.8	0.0	86.3	86.3
126		○	メタンチオール	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
127	○	○	メチルアミン	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	20.0	20.0
128		○	メチルアルコール	387.1	0.5	0.0	0.0	387.6	0.0	796.2	796.2
129		○	メチルエチルケトン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.2	2.2
130	○	○	3-メチルチオプロパナール	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
131	○	○	メチルナフタレン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
132		○	N-メチルピロリドン	<0.1	0.0	0.0	0.0	<0.1	0.0	<0.1	<0.1
133		○	メチルブチルケトン	85.0	2.6	0.0	0.0	87.6	0.0	2695.7	2695.7
134	○	○	モリブデン及びその化合物	0.0	0.7	0.0	0.0	0.7	0.0	0.8	0.8
135	○	○	モルホリン	0.0	0.2	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0
136		○	硫酸	2.2	0.0	0.0	0.0	2.2	0.0	57.9	57.9
137		○	硫酸ジエチル	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
138		○	りん及びその化合物	0.2	23.9	0.0	0.0	24.1	0.0	0.0	0.0
			住友化学全138物質集計(2010年度)	1183.7	109.0	0.0	0.0	1292.7	4.0	11314.8	11318.8

※PRTR法ではkg・有効数字2桁だが、報告書の数値はトン単位(ダイオキシンはmg-TEQ)で小数点以下第1位まで表記した(小数点第2位で四捨五入)。

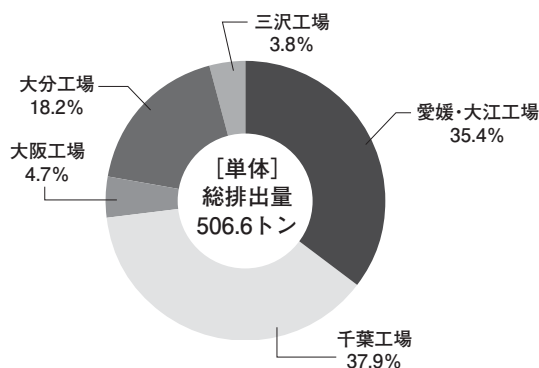
●2010年度PRTR調査物質の排出・移動量の内訳

		排出量			移動量		
		大気	水域	小計	下水道	廃棄	小計
PRTR法対象物質	単体 (103物質)	506.6	72.3	578.9	4.0	6281.5	6285.5
	グループ	746.3	106.4	852.7	7.6	10047.0	10054.6
日化協PRTR対象物質	単体 (138物質)	1183.7	109.0	1292.7	4.0	11314.8	11318.8

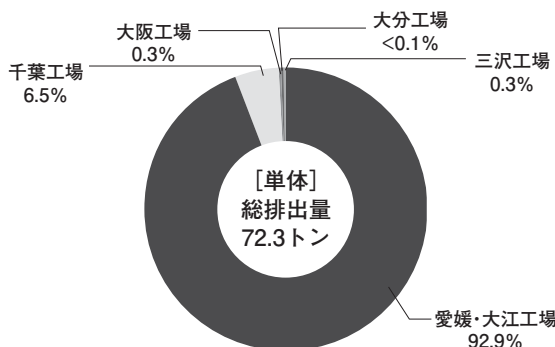
※グループの2010年度PRTR法対象物質の排出・移動量の内訳は、住友化学と国内グループ会社（16社）の集計値。

排出量の工場別内訳

●大気排出量（PRTR法対象物質）



●水域排出量（PRTR法対象物質）



レスポンスシブル・ケア活動

環境保全

【揮発性有機化合物（VOC）排出削減の取り組み】

「大気汚染防止法」に基づき2004年から規制の対象となったVOCについて、住友化学は「VOC排出量を2010年度までに2000年度比30%削減」という同法の基準より厳しい目標を設定して取り組んできました。目標年度である2010年度のVOC排出量は、2000年度比44.1%の削減（前年度比34.3%の削減）の2,195トンとなり当初の目標を達成しました。

【オゾン層破壊防止】

住友化学は強いオゾン層破壊作用を有する特定フロン（「特定物質の規制等によるオゾン層の保護に関する法律」で特定物質に指定されたもの）を冷媒に使用する冷凍機については、「みだりに冷媒を大気へ排出しない」「冷凍機の使用を中止して、特定フロンを処分する場合は、適切に回収・運搬して破壊処理を行う」という方針で管理しています。

◇目標◇

特定フロン(CFC11、CFC12、CFC113、CFC114、CFC115)を冷媒とする冷凍機の使用を2025年までに全廃する。

●2010年度末における特定フロン冷凍機の管理状況（単体、グループ）

種類	台数	
	単体	グループ
CFC11	18	20
CFC12	4	47
CFC113	0	0
CFC114	0	0
CFC115	0	5
計	22	72

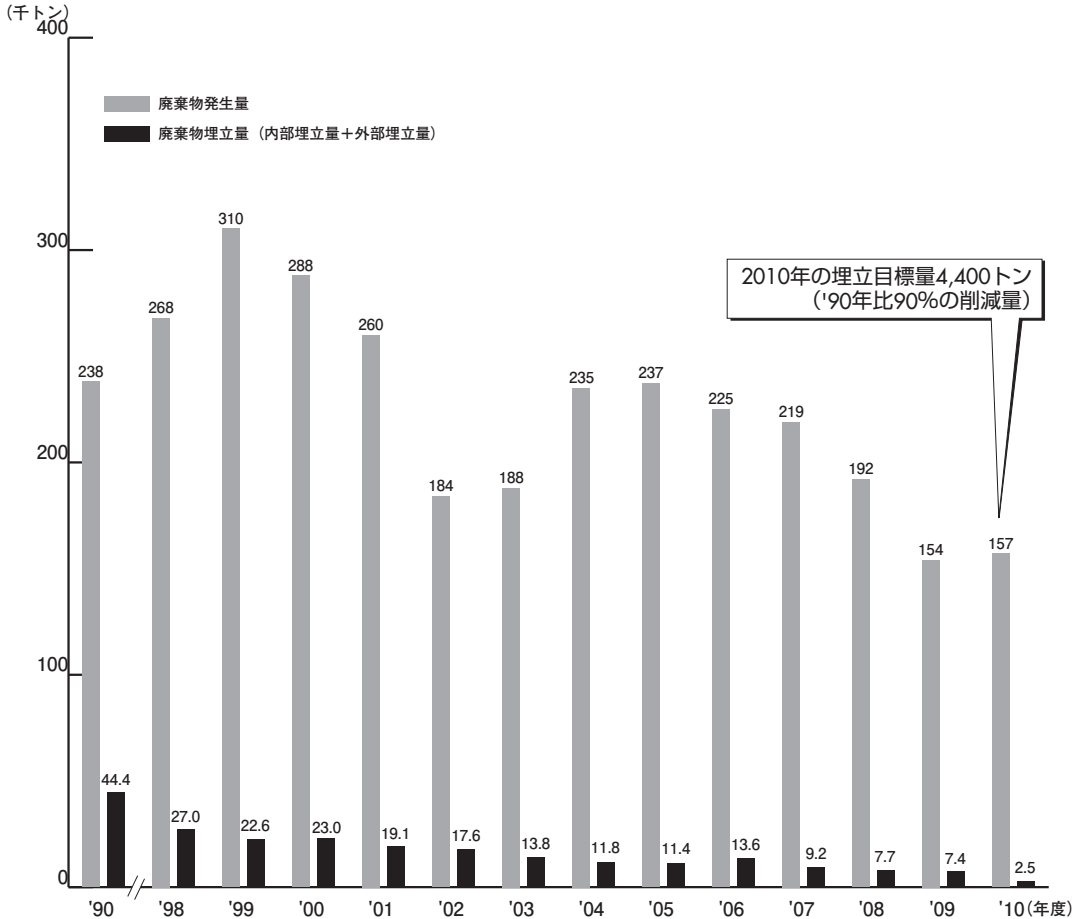
※グループのデータは、住友化学と国内グループ会社（16社）の集計値。

## 【産業廃棄物削減】

汚泥焼却灰等の再資源化の推進により、2010年度の産業廃棄物埋立量は1990年度比94.4%の削減（前年度比66.2%の削減）となり、当初の目標を達成しました。2011年4月からは「2015年度までに産業廃棄物埋立量を2000年度比80%削減」の新目標の取り組みをスタートさせました。

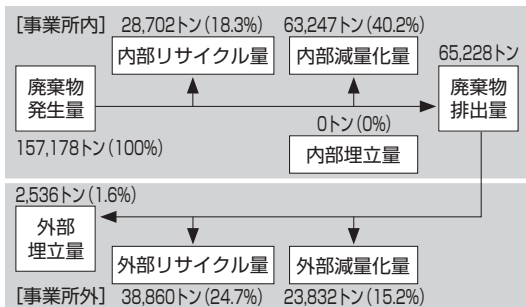
◇旧目標◇ 2010年度の産業廃棄物埋立量を1990年度比90%削減する。

廃棄物発生量と埋立量の推移(単体)

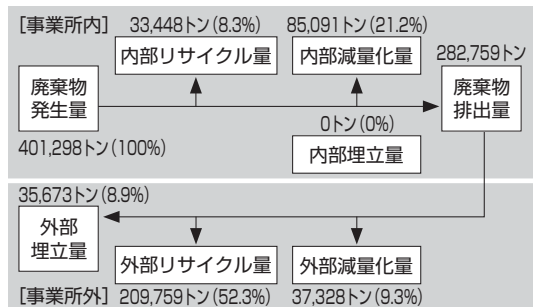


※1990（基準年）および2004年度以降のデータには、大阪工場（岐阜プラント）・大阪工場（岡山プラント）のデータを含む。

廃棄物処理フローと実績(2010年度、単体)



廃棄物処理フローと実績(2010年度、グループ)



リサイクル量：再使用、再利用もしくは熱回収された廃棄物の総量  
 減量化量：焼却等で減量化された廃棄物の総量  
 ※グループのデータは、住友化学と国内グループ会社（16社）の集計値。

## 【廃棄物処理法の産業廃棄物管理票（マニフェスト）の電子化】

事務の効率化、コンプライアンスの徹底、さらにはデータの透明性といった観点からマニフェストの電子化を推進しています。2010年度は17,745枚のマニフェストを交付し、そのうち12,609枚（71%）が電子マニフェストとなりました。

## 【PCBの回収・保管・処理】

「PCB（ポリ塩化ビフェニル）廃棄物の適正な処理に関する特別措置法」に基づき、保有するPCB廃棄物（変圧器、コンデンサーなどの絶縁油にPCBを使用する電気機器）は適正に回収し、特別管理産業廃棄物として倉庫内に保管場所を定め、厳重に保管しています。これらPCB廃棄物については、同法が定めた処理期限を前倒して、2014年3月までに全数の処理を完了させる予定です。

### ◇目標◇

PCB廃棄物の適正な回収・保管に努め、2014年3月までに処理を完了する。

#### ●2010年度末におけるPCB廃棄物の管理状況（単体・グループ）

	PCB廃棄物台数	PCB量 (m <sup>3</sup> )
単体	135 (保留…107/使用…28)	27.7
グループ	1,230 (保留…887/使用…343)	32.2

※低濃度PCB廃棄物は含まない。

※グループのデータは、住友化学と国内グループ会社（16社）の集計値。

※蛍光灯および水銀灯の各安定器の取り扱い

・単体……………集計の対象外

・グループ……一部グループ会社を除き、集計の対象外

## 4 | 物流環境保全

### 【物流部門の省エネ・CO<sub>2</sub>排出削減の取り組み】

輸送効率の向上に継続的に取り組んでいます。

2010年度のエネルギー消費原単位は、前年度比で38%の悪化、2006年度を基準とする過去5年間（2006～2010年度）の平均原単位では1.1%の改善となりました。前年度比における原単位の悪化は、赤泥の海洋投入処分完了に伴い、エネルギー効率の良い船舶輸送の構成比が低下したことが大きく影響しています。

#### ●物流部門のCO<sub>2</sub>の排出量推移

年度	2006	2007	2008	2009	2010
エネルギー消費量 (千kl-原油)	40.3	39.7	34.7	32.8	32.2
エネルギー消費原単位 (kl/トン)	0.0114	0.0111	0.0105	0.0105	0.0109
CO <sub>2</sub> 排出量 (千トン)	105.5	104.9	91.7	86.7	85.4

また、グループ会社（2社）における合計値の推移表は以下となっています。

#### ●グループ会社（特定荷主：2社）のエネルギー消費量・CO<sub>2</sub>排出量の推移 【日本エイアンドエル㈱・日本オキシラン㈱の総量合計値】

年度	2006	2007	2008	2009	2010
エネルギー消費量 (千kl-原油)	7.9	7.4	6.1	6.3	6.6
CO <sub>2</sub> 排出量 (千トン)	21.0	19.3	16.0	16.8	17.5

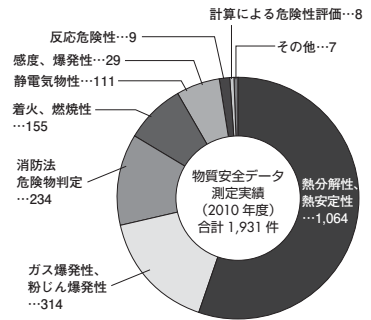


## 5 | 保安防災

### 【物質安全データ測定実績】

生産技術センター安全工学研究室（愛媛）では、化学プロセスでの火災・爆発災害を防止するため、プロセスの安全性評価と安全対策の研究、物質安全データの測定と評価の研究、保安技術の蓄積とそのデータベース化、安全技術者の育成などを行っています。

2010年度の物質安全データ測定件数は1,931件でした（2009年度は1,935件）。熱分解、熱安定性の試験が最も多く、約55%となっています。



### 【保安情報データベース】

収集した国内外の事故情報の抄録文を作成して、原文と共に、データベース登録しています。収録件数は2011年3月末現在で33,482件（2010年3月末は、32,023件）となっています。各工場・研究所の全ての従業員が登録情報を検索でき、各自の端末から抄録文および原文を閲覧・印刷することができます。これらの情報は、プロセス安全性評価、事例検討による類似災害の防止などに活用しています。また、重要な情報はグループ会社へも提供しています。

・ 防災技術情報	： 14,320 件
・ 事故原因調査	： 2,002 件
・ 事故情報	： 17,160 件
(2011年3月末現在)	

### 【プロセス安全検討会議】

研究開発から工業化への各ステージの節目で「プロセス安全検討会議」を開催し、ここで十分な安全性が確認されない限り、次のステージに進めないシステムを構築しています。本システムは、社内規程「安全管理要領」および「開発工業化規則」に詳細に規定され、開発責任者を明確にした運用が行われ、関係グループ会社にも周知しています。

2010年度に開催されたプロセス安全検討会議はのべ261回でした。今後もプロセス危険性のリスク管理を徹底していきます。

●プロセス安全検討会議の開催数

(単位：回)

	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5	合計
2009年度	38	27	57	84	23	229
2010年度	34	11	74	94	48	261

## 6 | RC 監査

### 【実績】

2010年度は、専門監査と全体監査をあわせて43回実施しました。

●レスポンスブル・ケア監査実績

(単位：回)

事業所等	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	
専門監査	工場	4	5	4	5	4	7	4	5	4	11	11
	研究所	2	1	0	1	1	0	1	1	0	1	1
	物流中継所	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0
	事業部門	4	4	7	5	6	5	5	6	5	5	4
	グループ会社（国内）	22	16	9	8	12	10	12	14	16	16	14
	グループ会社（海外）	—	2	1	2	3	1	4	4	4	3	6
全体監査	6	6	5	6	6	5	6	6	5	7	7	
合計	38	34	27	27	32	29	32	36	35	43	43	

2010年度の住友化学の専門監査における指摘件数は全213件でした。

継続的改善を図るため、毎年、監査項目を拡充・強化して監査を実施しています。

●2010年度事業所・事業部門の専門監査における指摘件数

(単位：件)

指摘区分	対象	事業所（工場・研究所）	事業部門（本社事業部）	合計
評価できる事項		6	0	6
改善が必要な事項		112	10	122
検討を要する事項		70	15	85
合計		188	25	213

# 7 | グループでの環境保全管理目標の共有化

## 【国内グループ】

国内グループ会社全体で、主要な環境負荷を計画的に低減させることを目的に、エネルギー消費原単位、CO<sub>2</sub>排出原単位、PRTR排出量（大気・水域）ならびに廃棄物物理立量のそれぞれについて、いずれも2010年度を目標年度とする共通の目標を策定し、具体的な取り組みを行ってきました。その結果、一定の成果をあげることができました。

### ① エネルギー消費原単位の改善

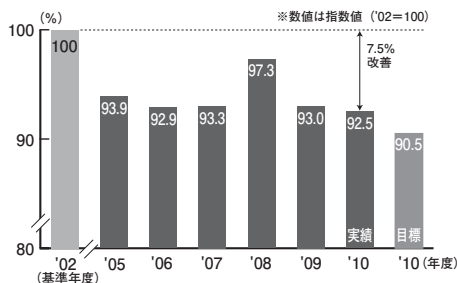
#### ◇目標◇

2010年度のエネルギー消費原単位を2002年度比9.5%改善する。

#### ◇実績◇

2010年度のエネルギー消費原単位は、2002年度比7.5%の改善となりました。

### ●エネルギー消費原単位指数の推移



### ② CO<sub>2</sub>排出原単位の改善

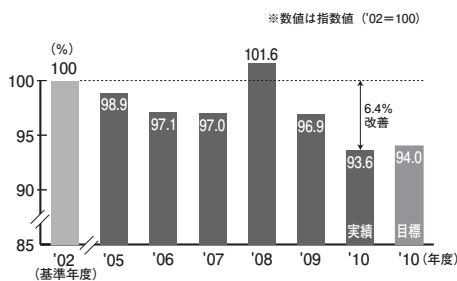
#### ◇目標◇

2010年度のCO<sub>2</sub>排出原単位を2002年度比6.0%改善する。

#### ◇実績◇

2010年度のCO<sub>2</sub>排出原単位は2002年度比6.4%の改善となりました。

### ●CO<sub>2</sub>排出原単位指数の推移



### ③ PRTR対象物質排出量の削減

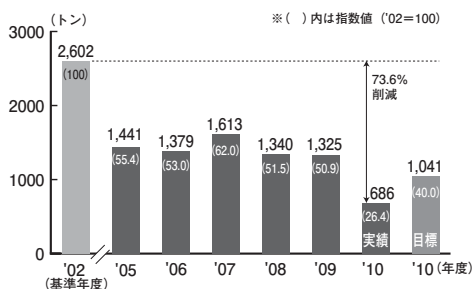
#### ◇目標◇

2010年度のPRTR法対象物質の総排出量（大気・水域）を2002年度比60%削減する。

#### ◇実績◇

2010年度のPRTR法対象物質の総排出量は2002年度比73.6%の削減となりました。

### ●PRTR排出量（大気・水域）の推移



### ④ 廃棄物物理立量の削減

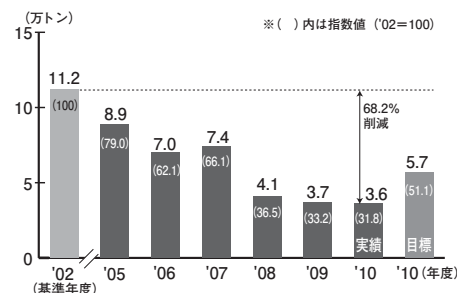
#### ◇目標◇

2010年度の廃棄物物理立量を2002年度比48.9%削減する。

#### ◇実績◇

2010年度の廃棄物物理立量は2002年度比68.2%の削減となりました。

### ●廃棄物物理立量の推移



## 【国内グループ各社の旧目標値について】

これまで、主要な環境保全管理項目について、グループで目標を共有化（具体的な数値目標の設定）する際のベースとなった各社それぞれの取り組み目標は以下のとおりでした。

### ●省エネルギー・地球温暖化防止への取り組み

会社名	目標の内容
朝日化学工業株式会社	・ 2010年度のエネルギー消費量を1990年度比10%削減する
住化加工紙株式会社	・ エネルギー消費原単位を毎年1%改善する
広栄化学工業株式会社	・ エネルギー消費原単位を毎年1%改善する
サーモ株式会社	・ 2010年度のエネルギー消費量を2002年度比10%削減する ・ 2010年度のCO <sub>2</sub> 排出原単位を2003年度比10%改善する
サンテラ株式会社	・ 2010年度のエネルギー消費原単位を2008年度比8%以内の悪化に抑制する
神東塗料株式会社	・ エネルギー消費原単位を毎年1%改善する
住化カラー株式会社	・ 2010年度のエネルギー消費原単位を1990年度比20%改善する
住友共同電力株式会社	・ 2010年度の自社火力発電のエネルギー消費原単位を2002年度比10%改善する ・ 2010年度の火力発電所の送電端のCO <sub>2</sub> 排出原単位を1990年度比10%以上改善する
大日本住友製薬株式会社	・ エネルギー消費原単位を毎年1%改善する ・ 2010年度のCO <sub>2</sub> 排出量を1990年度のレベル以下に抑制する ・ CO <sub>2</sub> 排出原単位を毎年1%改善する
住化スタイロンポリカーボネート株式会社 (旧住友ダウ株式会社)	・ エネルギー消費原単位を毎年1%改善する ・ 自家消費する化石燃料由来のCO <sub>2</sub> 排出原単位を毎年1%改善する
住化バイエルウレタン株式会社	・ エネルギー消費原単位を毎年1%改善する ・ 自家消費する化石燃料由来のCO <sub>2</sub> 排出原単位を2010年度までに1990年度比10%改善する
田岡化学工業株式会社	・ エネルギー消費原単位を毎年1%改善する ・ 自家消費する化石燃料由来のCO <sub>2</sub> 排出原単位を2010年度までに1990年度比3%改善する
日本エイアンドエル株式会社	・ 2010年度のエネルギー消費原単位を1990年度比20%改善する ・ 自家消費する化学燃料由来のCO <sub>2</sub> 排出原単位を2015年度までに1990年度比25%改善する
日本メジフィジックス株式会社	・ エネルギー消費量を毎年1%削減する
日本オキシラン株式会社	・ エネルギー消費原単位を毎年1%改善する ・ 自家消費する化石燃料由来のCO <sub>2</sub> 排出原単位を2010年度までに1990年度比10%改善する
住友化学株式会社	・ 2015年度のエネルギー消費原単位を1990年度比25%改善する ・ 自家消費する化石燃料由来のCO <sub>2</sub> 排出原単位を2015年度までに1990年度比20%改善する

●PRTR対応の取り組み

会社名	目標の内容
朝日化学工業株式会社	・2010年度の総排出量（大気・水域）を2001年度のレベル以下に抑制する
住化加工紙株式会社	・2010年度の総排出量（大気・水域）を2002年度比70%削減する
広栄化学工業株式会社	・生産量見合いでの排出増に抑制する
サーモ株式会社	・総排出量（大気・水域）ゼロレベルを維持する
サンテラ株式会社	・総排出量（大気・水域）ゼロレベルを維持する
神東塗料株式会社	・2008年度の総排出量（大気・水域）を2001年度比50%削減する
住化カラー株式会社	・2010年度の総排出量（大気・水域）を2003年度比15%削減する
住友共同電力株式会社	・総排出量（大気・水域）ゼロレベルを維持する
大日本住友製薬株式会社	・2010年度のジクロロメタン、クロロホルム、1,2-ジクロロエタンの大気総排出量を2003年度比20%削減する
住化スチロンポリカーネート株式会社 (旧住友ダウ株式会社)	・2010年度の総排出量（大気・水域）を2003年度比50%削減する
住化バイエルウレタン株式会社	・2010年度の総排出量（大気・水域）を2002年度比60%削減する
田岡化学工業株式会社	・2010年度の総排出量（大気・水域）を2002年度のレベル以下に抑制する
日本エイアンドエル株式会社	・2010年度の総排出量（大気・水域）を2002年度比60%削減する
日本メジフィジックス株式会社	・総排出量（大気・水域）ゼロレベルを維持する
日本オキシラン株式会社	・2010年度のモリブデンの水域排出量を10トンに削減する
住友化学株式会社	・2010年度の総排出量（大気・水域）を2002年度比50%削減する

●廃棄物削減の取り組み

会社名	目標の内容
朝日化学工業株式会社	・2010年度の廃棄物埋立量を2006年度比40%増までに抑制する
住化加工紙株式会社	・2010年度の廃棄物埋立量を2002年度比99%以上削減する
広栄化学工業株式会社	・2010年度の廃棄物埋立量を2002年度比20%削減する
サーモ株式会社	・2010年度の廃棄物埋立量を2002年度レベル以下に抑制する
サンテラ株式会社	・2010年度の廃棄物埋立量を2003年度レベル以下に抑制する
神東塗料株式会社	・汚泥を除く全廃棄物について前年度比2%の廃棄物埋立量を削減する
住化カラー株式会社	・2010年度の廃棄物埋立量を1990年度比20%削減する
住友共同電力株式会社	・2010年度の石炭灰の有効利用率を70%にする
大日本住友製薬株式会社	・2008年度の廃棄物埋立量を1990年度比80%以上削減する
住化スチロンポリカーネート株式会社 (旧住友ダウ株式会社)	・2010年度の廃棄物埋立量を2003年度レベル以下に抑制する
住化バイエルウレタン株式会社	・2010年度の廃棄物埋立量を1990年度比85%削減する
田岡化学工業株式会社	・2010年度の廃棄物埋立量を2002年度レベル以下に抑制する
日本エイアンドエル株式会社	・2010年度の廃棄物埋立量を1990年度比85%削減する
日本メジフィジックス株式会社	・2010年度の廃棄物埋立量を27トンに削減する
日本オキシラン株式会社	・2010年度の廃棄物埋立量を1990年度比90%削減する
住友化学株式会社	・2010年度の廃棄物埋立量を1990年度比90%削減する

## 【2011年度以降の国内グループ会社の新目標について】

2011年4月から新たに住化農業資材株式会社を加え全17社で、以下の新目標の取り組みをスタートさせました。

### ①エネルギー消費原単位の改善

2015年度のエネルギー消費原単位を2010年度比5%改善する。

### ②CO<sub>2</sub>排出原単位の改善

2015年度のエネルギー起源のCO<sub>2</sub>排出原単位を2010年度比5%改善する。

### ③PRTR対象物質排出量の削減

2015年度のPRTR法対象物質の総排出量（大気・水域）を2010年度比17%削減する。

### ④廃棄物埋立量の削減

2015年度比の廃棄物埋立量を2010年度比24%削減する。

## 【海外グループ】

主要な海外グループ会社（全9社）についても、国内グループ会社の取り組みに準じて、エネルギー消費原単位およびCO<sub>2</sub>排出原単位、水使用原単位、廃棄物埋立原単位のそれぞれについて、2010年度を目標年度とする共通の目標を策定し、具体的な取り組みを行ってきました。その結果、一定の成果をあげることができました。

### ①エネルギー消費原単位の改善

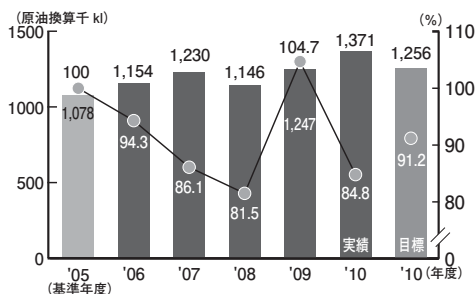
#### ◇目標◇

2010年度のエネルギー消費原単位を、2005年度比8.8%改善する。

#### ◇実績◇

2010年度のエネルギー消費原単位は、2005年度比15.2%の改善となりました。

#### ●エネルギー消費量および同原単位指数の推移



### ②CO<sub>2</sub>排出原単位の改善

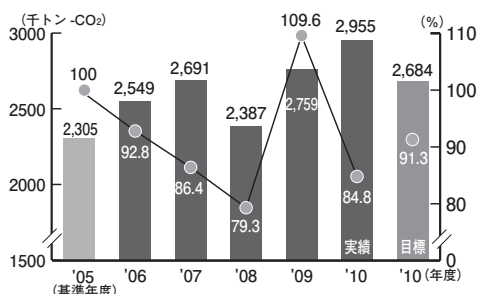
#### ◇目標◇

2010年度のCO<sub>2</sub>排出原単位を、2005年度比8.7%改善する。

#### ◇実績◇

2010年度のCO<sub>2</sub>排出原単位は、2005年度比15.2%の改善となりました。

#### ●CO<sub>2</sub>排出量（エネルギー起源）および同原単位指数の推移



### ③水使用原単位の改善

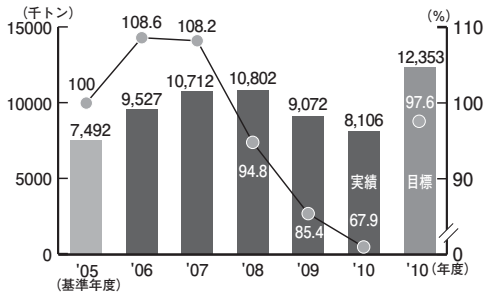
#### ◇目標◇

2010年度の水使用原単位を、  
2005年度比2.4%改善する。

#### ◇実績◇

2010年度の水使用原単位は、  
2005年度比32.1%の改善となりました。

#### ●水使用量および同原単位指数の推移



※集計対象の海外グループ会社は以下の9社。  
Sumitomo Chemical Singapore Pte Ltd.,  
Petrochemical Corporation of Singapore (Pte) Ltd.,  
The Polyolefin Company (Singapore) Pte. Ltd.,  
Sumipex (Thailand) Co., Ltd.,  
Bara Chemical Co., Ltd.,  
Dalian Sumika Chemphy Chemical Co., Ltd.,  
SC Enviro Agro India Private Ltd.,  
Sumika Technology Co., Ltd.,  
Dongwoo Fine-Chem Co., Ltd.

(注) 廃棄物埋立量および同原単位指数は、これまでの集計に誤りが認められたため、過年度にわたり修正しました。

### ④廃棄物埋立原単位の改善

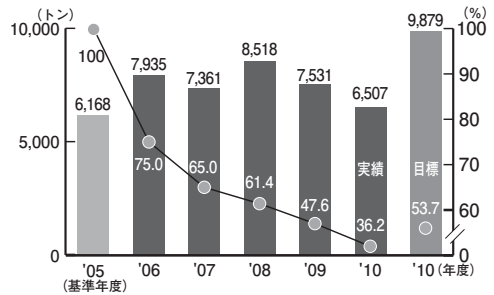
#### ◇目標◇

2010年度の廃棄物埋立原単位を、  
2002年度比46.3%改善する。

#### ◇実績◇

2010年度の廃棄物埋立原単位は、  
2005年度比63.8%の改善となりました。

#### ●廃棄物埋立量および同原単位指数の推移



## 【2011年度以降の海外グループ会社の新目標について】

2011年4月から新たに住化電子材料科技（無錫）有限公司およびスミペックステックシートの2社を加え、全11社で、以下の新目標の取り組みをスタートさせました。

#### ①エネルギー消費原単位の改善

2015年度のエネルギー消費原単位を2010年度比7.8%改善する。

#### ②CO<sub>2</sub>排出原単位の改善

2015年度のエネルギー起源のCO<sub>2</sub>排出原単位を2010年度比9.1%改善する。

#### ③水使用原単位の改善

2015年度の水使用原単位をを2010年度比13.7%改善する。

#### ④廃棄物埋立原単位の改善

2015年度の廃棄物埋立原単位を2010年度比16.5%改善する。

## 8 | 省エネ法・地球温暖化対策推進法に基づくグループでのエネルギー消費量およびCO<sub>2</sub>排出量の実績

国内グループ（住友化学およびグループ会社の全17社※）の2009年度の実績は以下のとおり。これら数値は2010年11月、グループ各社から所管官庁へ報告された数値を集計したものです。

	住友化学グループ	住友化学単体
エネルギー消費量（千kl-原油換算）	2694 （工場：2661 本社、研究所等の事務所部門：33）	1340 （工場：1328 本社、研究所等の事務所部門：12）
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量（千トン）	7798 （工場：7732 本社、研究所等の事務所部門：66）	3556 （工場：3531 本社、研究所等の事務所部門：25）

※集計対象は、「7、グループでの環境保全管理目標の共有化における新目標参画会社」と同じ

## 9 | その他（トピックス）

### 廃棄物焼却設備更新（千葉工場）

千葉工場ではこれまで18年間使用してきた廃棄物焼却設備を老朽化のため更新し、2011年4月に新たに稼動を開始しました。

本計画を実現するにあたり、千葉県への設備設置申請や設計検討などの各種段階において、千葉県専門委員会にて数多くの審議がなされました。

そこで出された貴重な意見・指摘を踏まえ、さらに自社で検討を重ねることで生まれた数々の改善アイデアを、実機のデザインへ反映することができました。

一例として焼却炉燃焼ガスの滞留時間を大幅に増加（2秒→7秒）させて完全燃焼を促し、燃料消費効率を向上させることで、重油使用量を削減（重油Δ950T/Y、CO<sub>2</sub>Δ3000T/Y）したことなどがあげられます。

### 廃油燃料化推進による重油使用量の削減（岐阜プラント）

岐阜プラントでは発生する廃水を燃焼炉で処理する際、燃料にプロセス廃油を活用し、燃料重油の使用量削減を行ってきました。

2010年4月以降は、それまでの廃油発生源の主要品目であった製品の生産が終了したことに伴い燃料廃油が不足することが予想されましたが、焼却炉の安定・効率運転を目的に、各種廃油の性状を詳しく検討・調査して、廃油の分類方法を見直しし、焼却に供する廃油の混合方法を改めました。


その結果、排水焼却処理の重油原単位は前年比30%（132kl）の削減となりました。

なお、廃油の有効活用をさらに安定的に進めていくために、廃油貯槽2基の新設工事も完了しました。

# 10 | エコ・ファーストの約束

2008年11月、住友化学は化学物質管理や地球温暖化対策の推進など、自らの環境保全に関する先進的な取り組みを「エコ・ファーストの約束」として環境大臣に約束しました。

## 【「エコ・ファーストの約束」の全文】



### エコ・ファーストの約束

～環境先進企業としての地球環境保全の取り組み～

平成20年11月11日

環境大臣 齊藤鉄夫 殿

住友化学株式会社  
代表取締役社長  
**米倉弘昌**

住友化学株式会社は、化学企業のリーディングカンパニーとして「適切な化学物質管理を基本」に加えて、法令遵守の徹底はもとより、製品の全ライフサイクルにわたって「安全・環境・健康・品質」を確保し、対話を通じて社会からの信頼を深めていく、事業者の自主的活動(レスポンシブル・ケア活動)を一層推進するとともに、地球社会の持続可能な発展に貢献するため、以下の取り組みを進めてまいります。

- 1. 化学物質管理とリスクコミュニケーションを適正かつ積極的に推進します。**
  - 社会の信頼が当社製品をより安全、より安心にお使いいただけることを目的として、2010年度までに、住友化学が専門1トン以上製造あるいは輸送している全製品の安全性に関する情報の再評価に努め、2020年度までに適切なリスク評価を実施します。
  - 世界の化学企業と連携して、「高生産量化学物質(HPV)の安全性の自主点検」や「人の健康や環境に及ぼす化学物質の影響に関する自主研究」などに参画し、化学物質の安全性の向上に取り組めます。なお、当社がリーダーとなる取り組みであるHPV(全量物質)については、2010年度までに卒業完了を目的とします。
  - 大気・水質への化学物質(特定規制化学物質)の排出量について、2010年度までに2002年度比半減を達成します。
  - 各事業所は自主的に緊急工事を実施して、地域性にも配慮しながら消費者などへの「情報公開」と「コミュニケーション」の充実に努めます。
- 2. 地球温暖化の防止に向けた取り組みを積極的に推進します。**
  - 全工場のエネルギー消費効率を2012年度までに1990年度比25%改善するとともに、2015年度の自家消費する化石燃料由来のCO<sub>2</sub>排出削減率について1990年度比20%改善を目指します。
  - 石油化学工業協会の一員として「低炭素技術開発(H2EART)プロジェクト」を立ち上げ、2015年度までに、石油化学プラントから排出され、今まで利用できなかった低炭素物(120℃以下)を回収し、製造プラントで再利用する革新的なエネルギー回収・実用化を推進します。
  - 物流部門でのモーダルシフトの促進や積込・積降の大型化などによる業務の効率化を図り、年平均1%のエネルギー消費効率の改善を目指します。
  - 労働組合と協働で、「家庭での地球温暖化防止に向けたCO<sub>2</sub>削減活動」に取り組む、従業員の家での継続的なCO<sub>2</sub>削減活動を推進します。
- 3. 循環型社会の形成に向けた取り組みを積極的に推進します。**
  - 廃棄物の発生抑制および再資源化に取り組む、2010年度までに産業廃棄物の埋立量を1990年度比30%削減を達成します。
  - 2015年度までに国内全工場において、廃棄物の発生量に対する埋立量の割合を5%未満にします。

住友化学株式会社は、上記取り組みの進捗状況を確認し、その結果について定期的に公表するとともに、環境省へ報告します。

